

令和6年度
事業報告

公益財団法人日本パラスポーツ協会

《 目 次 》

I 基本方針	1
II 令和6年度の具体的な施策	
ミッション1	2
ミッション2	8
ミッション3	11
ミッション4	21
ミッション5	23
ミッション6	26
その他	28

I. 基本方針

2021年3月に策定した「JPSA2030年ビジョン」に基づき、「ミッション1」から「ミッション6」に掲げた施策を推進し、「活力ある共生社会の実現」を目指した。

- ミッション1 パラスポーツの普及拡大
- ミッション2 関係団体との連携・協働体制
- ミッション3 競技力の向上とパラスポーツの価値・魅力の向上
- ミッション4 パラスポーツを通じた国際協力
- ミッション5 パラスポーツの理解促進
- ミッション6 パラスポーツの発展に向けた万全な基盤づくり

特に、8月に開催された「パリ2024パラリンピック競技大会」において金メダル14個、銀メダル10個、銅メダル17個 合計41個のメダルを獲得し、前回大会の東京大会の金メダル13個を上回る好成績を収めることができた。また、パリ大会の好循環を継承すべく、関係者が一堂に会し、大会の振り返りやクラス分けなど、JPCの今後の活動に必要な知見や経験を横断的に情報共有する「JPCギャザリング」を開催し、今後、開催されるミラノ・コルティナ冬季大会やロサンゼルス大会に向けて連携を図った。

佐賀県で開催した全国障害者スポーツ大会は、新しい大会、スポーツ文化の新時代をつくるとのメッセージのもと、伴走者・ランプオペレータなど競技を支える方々へのメダル授与や屋内での閉会式など、「する」、「みる」、「ささえる」皆様が楽しめる様々な新しい試みを実施した素晴らしい大会となった。

このほか、都道府県・指定都市パラスポーツ協会などの関係団体と連携・協力を図り、障がい者が日常的にスポーツに参加できる環境整備を行い、地域における障がい者の活動拠点となるパラスポーツセンターの全国展開や機能強化に向けた取組みを実施するとともに、引き続き、指導者の養成・確保のための講習会やレベルアップ研修会の開催、地域におけるパラスポーツ振興事業への支援などの事業を進めた。

世界で活躍できるアスリートを支援するため、競技力向上施策、専任スタッフ等の配置などの体制整備、競技団体への支援を行うとともに、未来のトップアスリートを発掘・育成するJスタープロジェクトの開催、アンチ・ドーピング教育の開催、学校でパラリンピック教育を行うIPC公認教材「I'mPOSSIBLE」日本版の普及・啓発、IPCをはじめとする国際関係機関との連携・協力を図った。

パラスポーツの更なる発展のため、引き続き、パートナー企業による協賛金や寄付金の受入れなど、財政面での安定化を進めた。特に、昨年度から実施したJPCオフィシャルパートナーの契約期間をパラリンピック周期に合わせた4年間の契約とし、一部のパートナーについては、日本オリンピック委員会と連携したオリ・パラ連携プログラムを開始した。

II. 令和6年度の具体的な施策

ミッション1【パラスポーツの普及拡大の実現】

障がいのある人たちが、障がいの種類や程度、ライフステージやニーズに応じて、身近な地域で日常的にスポーツを楽しめるような環境を整え、パラスポーツの普及拡大を実現に向けて事業を行った。

「1-1」パラスポーツの普及拡大の環境づくり

(1) 全国障害者スポーツ大会の発展

1) 全国障害者スポーツ大会（公益財団法人 JKA 補助事業）

会 期 令和6年10月26日（土）～28日（月）

開閉会式会場 SAGA サンライズパーク

開会式：SAGA スタジアム、閉会式：SAGA アリーナ

愛 称 SAGA2024

スローガン 新しい大会へ。すべての人に、スポーツのチカラを。

参加者数 選手3,362名 役員2,598名

2) 地区予選会（公益財団法人 JKA 補助事業）

会 期 令和6年4月～6月

内 容 ブロックごと（北海道・東北ブロック、関東ブロック、北信越・東海ブロック、近畿ブロック、中国・四国ブロック、九州ブロック）に身体障がい者、知的障がい者及び精神障がい者の団体競技について予選を実施。

3) 全国障害者スポーツ大会の内容充実

① 全国障害者スポーツ大会 大会委員会の開催

開催県からの大会報告による競技運営の課題等を受け、全国障害者スポーツ大会開催基準要綱の見直しや競技・種目の変更・施行時期の調整及び各種課題について当協会専門委員会の技術委員会と連携を図りながら協議した。

② 競技別技術指導員の派遣

実施競技の円滑な運営を図るため、各競技の専門的な知識と技術を有し、競技に精通した指導員を派遣し（14競技23名）、本大会及びリハーサル大会における競技運営支援を行った。

③ 開催県等におけるパラスポーツの環境拡大

「大会ガイドブック」や「大会紹介映像」等の広報媒体を作成し、地域で開催されるパラスポーツの啓発事業等で配布、映写するなど広報活動を進めた。

④ 国民スポーツ大会における全国障害者スポーツ大会の理解啓発ブースの出展

スポーツに関心を持った多くの方々が集う国民スポーツ大会において、「障がい」や「障がい者のスポーツ」を“知ってもらう”機会をつくることを目的とした体験ブースを出展し、国民スポーツ大会に引き続き開催される全国障害者スポーツ大会に向けた理解啓発を行った。また、国民スポーツ大会総合開会式には、日本スポーツ協会との協働事業として JAPAN GAMES PARK にて、パラスポーツの理解・啓発ブースを実施した。

(2) 身体運動の重要性の理解・促進

スポーツ・健康関係団体等と連携して、障がいのあるすべての人々にとって身体運動が重要であることを啓発した。

JPSA のホームページにおいて、障がい者の身体運動の重要性を発信、また、パラスポーツ協会やパラスポーツセンターと連携し、自宅等で気軽にできる運動、体操の映像配信やパラスポーツの競技紹介などの映像を配信した。

1) パラスポーツの映像制作・配信事業（JPSA 委託事業）

No.	受託団体名	事業名
1	障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール	知的・発達障害児向け 健康増進を目的としたスポーツ活動動画

(3) 学校でのパラスポーツ理解の環境づくり

学校においてパラスポーツを通じた障がい者の理解促進を図る学習機会や特別支援学校・学級における体育授業の充実及びクラブ活動への参加促進がなされるような環境整備を支援するため、保健体育課教員を対象に公認中級パラスポーツ指導者講習会を開催した。

(4) スポーツ施設等のアクセシビリティの向上

障がい者が利用できるスポーツ施設や施設までのアクセスなどの情報提供をすることにより、障がい者が利用しやすい環境整備を支援する取り組みとして、日本スポーツ施設協会主催のスポーツ施設管理者のための障がい者対応講習会（オンライン講習）に協力し、障がい者が身近な地域において運動・スポーツに参加できる環境づくりを積極的に推進した。

(5) パラスポーツセンターの利用環境の充実

パラスポーツセンターと連携を深め、パラスポーツの振興体制を充実させるため、協会にパラスポーツセンター協議会を置き、連携事業を実施した。また、11月に香川県において「全国障がい者スポーツセンター連絡協議会」を実施し、施設長会議や実務担当者会議において、各センターにおける課題の解決を図った。

1) 地域のパラスポーツセンターの在り方検討事業（JPSA 委託事業）

現在、JPSA のパラスポーツセンター協議会に登録しているスポーツセンターは26施設であるが、未設置の道県および政令指定都市を対象に、今後、地域のパラスポーツ振興の拠点となるパラスポーツセンターの整備に向けて、地域の実情に応じた在り方を関係者で検討する事業を行った。

No.	受託団体名	事業名
1	静岡県	パラスポーツの聖地づくり推進事業
2	札幌市	障がい者スポーツセンター基本構想策定事業

2) パラスポーツ実施環境の構築支援・拠点整備事業（JPSA 委託事業）

地域におけるパラスポーツの拠点の一つであるパラスポーツセンターのスポーツ用具を充実させ、障がいのある方が運動・スポーツを始めるきっかけとなる体制を整備した。

No.	受託団体名	事業名
1	新潟県障害者交流センター	プロサッカーチームと協働したパラスポーツの普及事業
2	京都市障害者スポーツセンター	スクエアボッチャ普及プロジェクト

3) パラスポーツセンター機能強化・人材育成等事業（委託事業）

パラスポーツセンターは、地域全体にパラスポーツの普及等を行う幅広い機能や高い専門性を持つ施設であり、そこに人材を配置すること、また機能強化事業を実施することで、機能の整備や現状の機能の強化を行った。

No.	受託団体名	事業名
1	高知県（高知県立障害者スポーツセンター）	障害者スポーツ統括コーディネーターの配置によるセンター機能強化および地域におけるパラスポーツ拠点整備事業

4) パラスポーツセンター職員スキルアップ研修会の開催

若手～中堅層の指導員を対象に、各施設が蓄積したノウハウの共有や指導上の情報交換等を行うことで、施設運営の中心となっている職員の資質の向上を図った。

研 修 会 名	開 催 期 日	開 催 場 所	修了者数
パラスポーツセンター職員 スキルアップ研修会	令和6年12月 2日（月）、3日（火）	大阪市長居障がい者スポーツセンター	20名 (13施設)

(6) 総合型地域スポーツクラブの利用環境の充実

日本スポーツ協会と連携し、障がいの有無に関わらず、地域で気軽にスポーツに親しめる環境の充実に向けて、総合型地域スポーツクラブでの障がい者に対する支援体制の整備、拡充に向けた検討を行った。

「1－2」公認パラスポーツ指導者の育成

(1) スポーツ指導者数の拡大

1) 公認パラスポーツ指導者（以下「パラスポーツ指導者」という。）養成事業

各種指導者養成講習会の回数・内容の充実を図るとともに、指導者数の拡大のため、以下の講習会及び研修会を開催するほか、指導者養成講習会の実施団体の拡大などの検討を行った。

① 初級及び中級パラスポーツ指導員養成講習会の認定

都道府県・指定都市、県等パラスポーツ協会、その他関係機関が実施する初級及び中級パラスポーツ指導員養成講習会について、講習内容、時間数などを審査し、基準に沿って、講習会を認定した。（令和7年2月末日現在）

・初級パラスポーツ指導員養成講習会 78件（内 委託事業8件）

・中級パラスポーツ指導員養成講習会 8件（内 委託事業0件）

ア) 初級パラスポーツ指導員対象 2件

イ) JSP0 公認指導者対象（都道府県主催） 1件

ウ) 理学療法士対象（各県理学療法士会主催） 4件

エ) 作業療法士対象（日本作業療法士協会主催） 1件

② パラスポーツ指導員等各種養成講習会の開催

JPSA が主催して行うパラスポーツを支える指導者の養成講習会及び専門性の高い有資格者の育成研修会を開催した。

講 習 会 名	開 催 期 日	開 催 場 所	修了者数
公認上級パラスポーツ指導員養成講習会	前期：令和6年7月25日～28日 後期：令和6年11月29日～12月1日	大阪市長居障がい者スポーツセンター 大阪市舞洲障がい者スポーツセンター	51名
公認中級パラスポーツ指導員養成講習会(1)	前期：令和6年7月13日～17日 後期：令和7年1月11日～15日	宮崎県福祉総合センター ひなた宮崎県総合運動公園 宮崎市障がい者体育センター 宮崎県立明星視覚支援学校 宮崎青少年プラザ	42名
公認中級パラスポーツ指導員養成講習会(2) (JSP0 公認指導者対象)	令和6年9月19日～22日	神奈川県立スポーツセンター	47名
公認中級パラスポーツ指導員養成講習会(3) (保健体育教員対象)	令和6年8月17日～20日	岐阜県福祉友愛アリーナ 岐阜県福祉友愛プール	11名
公認パラスポーツコーチ養成講習会	前期：令和6年6月21日～23日 後期：令和6年12月20日～22日	NTC ウエスト 東京都障害者総合スポーツセンター	17名 (合格者)
公認パラスポーツトレーナー養成講習会	一次講習会・検定試験： 令和6年8月2日～4日 二次講習会： 令和6年11月8日～10日 二次検定試験： 令和7年1月31日～2月2日	日本パラスポーツ協会 東京都障害者総合スポーツセンター	23名 (合格者)
公認パラスポーツ医養成講習会	オンライン配信： 令和7年2月8日～9日 対面講習：令和7年2月22日	対面： 大阪市長居障がい者スポーツセンター	56名

③ 資質向上のための研修事業

JPSA が主催して行うパラスポーツ指導者のレベルアップにつながる研修会を実施した。

講 習 会 名	開 催 期 日	開 催 場 所	修了者数
資格取得認定校研修会	令和6年9月6日	オンライン研修会	44校
全国障害者スポーツ大会 障害区分判定研修会	令和6年7月27日、28日	滋賀県立県民交流センター（ピアザ・炎海）	58名
第19回公認パラスポーツ指導員全国研修会	令和6年12月14日、15日	東京都障害者総合スポーツセンター	403名 (延べ)

(1) 公認パラスポーツ指導員養成講習会・研修会開催事業（JPSA 委託事業）

県市等パラスポーツ協会、パラスポーツ指導者協議会、パラスポーツセンターに対し、公認初級・中級パラスポーツ指導員養成講習会や指導者の資質向上の研修会の開催を助成し、地域振興に欠かせない人材養成に積極的に取り組むための事業を推進した。

No.	団 体 名	事業区分	事 業 名
1	岩手県障がい者スポーツ協会	中級②	令和6年度PTのための中級パラスポーツ指導員養成講習会
2	群馬県パラスポーツ協会	初級①	群馬県初級パラスポーツ指導員養成講習会
3	岐阜県障害者スポーツ協会	初級②	令和6年度初級パラスポーツ指導員養成講習会
4	兵庫県障害者スポーツ協会	初級①	第46回兵庫県パラスポーツ指導者養成講習会
5	神戸市社会福祉協議会 障害者スポーツ振興センター	初級①	第43回初級パラスポーツ指導員養成講習会
6	和歌山県障害者スポーツ協会	初級①	令和6年度和歌山県初級パラスポーツ指導員養成講習会
7	島根県障害者スポーツ協会	初級①	令和6年度島根県パラスポーツ指導員養成研修会
8	山口県パラスポーツ指導者協議会	スキル アップ	山口県パラスポーツ指導者協議会研修会 「パラスポーツ指導者フォローアップ研修会」
9	佐賀県パラスポーツ協会	初級①	令和6年度公認初級パラスポーツ指導員養成講習会（佐賀）
10	大分県障がい者スポーツ協会	初級①	2024年度大分県パラスポーツ指導者（初級指導員）養成講習会
11	沖縄県障がい者スポーツ協会	初級①	令和6年度初級パラスポーツ指導員養成講習会

2) 公認パラスポーツ指導者の資格認定

当協会が認定した公認パラスポーツ指導員養成講習会の修了者や資格取得認定校（大学・短期大学及び専門学校）で所定の要件を満たした者などが資格申請した者の認定業務を行った。 認定校 206 校（前年度 198 校）

(2) 公認パラスポーツ指導者の育成

① 公認中級・上級パラスポーツ指導員養成研修会

講 習 会 名	開 催 期 日	開 催 場 所	修了者数
公認中級・上級パラスポーツ指導員育成研修会	令和7年1月25日、26日	新潟県障害者交流センター	20名

② 指導者資格取得者数

（令和6年度：令和6年3月31日現在、前年度：令和5年3月31日現在）

初級指導員	21,354名	（昨年：21,686名）
中級指導員	4,367名	（昨年：4,350名）
上級指導員	926名	（昨年：907名）
スポーツ医	643名	（昨年：616名）
スポーツコーチ	224名	（昨年：216名）
スポーツトレーナー	269名	（昨年：242名）

計 27,783名 （昨年：28,017名） （前年度 △234名）

「1－3」 パラスポーツ振興に関する連携・協働

(1) 競技団体への支援

JPSA 登録競技団体やパラアスリート等の充実した活動の実現に向けた支援の在り方及び登録競技団体の登録規程の在り方を検討した。さらに、パラリンピック競技団体の自立に向けた活動を目指し、今後の支援の在り方を検討した。

(2) 日本スポーツ協会等との連携・協働

①指導者養成については、上記「1－2」公認パラスポーツ指導者の育成に掲げた養成事業等を通じて指導者の育成を図るとともに、健常者を中心に指導者養成を行っている日本スポーツ協会との連携を図り、実施した。

②都道府県におけるスポーツ関係団体の連携支援

→ミッション2「2－2」参照

③全国障害者スポーツ大会及び予選会などの各種競技大会を通じ、開催都道府県・市町村や地元の競技団体との連携・協働を密にし、パラスポーツの安全・安心に配慮した大会運営を行った。

④日本作業療法士協会との連携

障がい者の日常生活支援に大きな役割と専門性を有する作業療法士（OT）を養成・育成している日本作業療法士協会と連携・協力し、障がい者がより豊かで健康な生活を営むための支援拡大として、日常的な運動・レクリエーションおよびスポーツ分野からも関わることができる作業療法士を対象とした公認パラスポーツ指導者の養成・育成する体制構築をめざす。

試行として中級パラスポーツ指導員養成講習会を実施し、カリキュラム内容や実施方法について検証し、公認パラスポーツ指導者資格として制度化への検討を進めた。

「1－4」 パラスポーツに関する調査・研究

(1) 大学等との協働

大学や研究機関等と協働し、パラスポーツの普及・強化・啓発等に寄与する調査・研究を行った。

東京大学スポーツ先端科学連携研究機構と連携し、東京大学教養学部前期課程全学ゼミナールに対しての講師協力等を行った

(2) 重度障がい者、高齢障がい者等のスポーツ参加に向けた調査・研究

本年度は調査を実施しなかった。

(3) 公認パラスポーツ指導員実態調査

5年に一度の調査のため、本年度は実施しなかった。次回令和7年度実施予定。

(4) 全国障害者スポーツ大会 スラローム種目における電動車いすの速度と競技結果に関する検証調査

全国障害者スポーツ大会の「スラローム」では使用する電動車いすは時速6.0km以下と定められているが、近年は外国製の電動車いすも増えてきており、6.0km以上の走行が可能なものもある。

そこで、電動車いすの速度、加速や回転性能と競技成績の関連性を明らかにし、今後の規則の見直しやプログラム編成等の基礎データを得ることを目的とし実施した。

ミッション2

【全国における行政、学校、関係諸団体等との強い連携・協働】

スポーツ施策の一元的推進体制の下、全国においてパラスポーツ振興の取り組みが継続的に推進できるよう、行政（スポーツと福祉）、学校、スポーツ団体、医療機関及び企業・関係諸団体等との強い連携・協働体制づくりを進めた。

「2-1」 県市等におけるパラスポーツ振興への支援

(1) 県市等でのスポーツ教室・大会・イベント開催の促進

県市等パラスポーツ協会、パラスポーツ指導者協議会、行政機関が協働し、パラスポーツ競技団体及び一般スポーツ競技団体など関係者と連携し、障がい者が気軽に参加できるスポーツ教室・大会・イベントの継続的な開催を促し、スポーツの日常化を進めた。

1) 地域におけるパラスポーツの振興事業等の内容充実（JPSA 委託事業）

障がい者が、身近な地域で自主的・積極的・継続的にスポーツに参加できる環境づくりを目指し、県市等パラスポーツ協会、パラスポーツ指導者協議会、パラスポーツ競技団体、パラスポーツセンターと連携して地域におけるパラスポーツ振興の課題解決のきっかけとなるよう次の事業を実施した。

事業は、公認パラスポーツ指導者やスポーツ、福祉、医療等の関係団体、学校等の教育機関との連携や協働を図りながら、障がい者向けのスポーツ教室やイベント等を実施する団体に対し助成した。（32 団体で実施）

No.	団体名	事業名称
1	岩手県障がい者スポーツ協会	パラスポーツ交流を通じた「障害の社会モデル」理解促進事業
2	宮城県障害者スポーツ協会	宮城県パラスポーツ振興事業
3	京都市障害者スポーツ協会	パラスポーツ活動拠点拡大プロジェクト～スクエアボッチャを活用して～
4	兵庫県障害者スポーツ協会	HYOGO パラスポーツ推進チャレンジ2024
5	和歌山県障害者スポーツ協会	みんな、おいで!! パラスポしよ。紀の国よみがえりプロジェクト2024
6	徳島県パラスポーツ協会	ネットワーク・ラインアップ事業
7	大分県障がい者スポーツ協会	チーム大分未来のスター発掘プロジェクト事業
8	鹿児島県パラスポーツ協会	鹿児島県パラスポーツ普及プロジェクト
9	沖縄県障がい者スポーツ協会	沖縄県におけるパラスポーツの振興事業
10	宮城県障害者スポーツ指導者協議会	障がい者のスポーツ参加と指導員の活動機会活性化事業
11	ひょうごパラスポーツ指導者協議会	地域と展開する「パラスポーツ・ユニバーサルスポーツの普及、定着化」事業
12	日本ブラインドサッカー協会	ブラインドサッカー地域リーグ2024（中日本・北日本）
13	日本ボッチャ協会	ボッチャを通じた地域スポーツ振興のための選手、指導者、競技役員育成事業～B チャレンジ～
14	日本障害者カヌー協会	地域におけるパラカヌー普及振興事業
15	日本パラ・パワーリフティング連盟	仲間の輪を広げようキャラバン～地域組織結成・育成支援～
16	日本パラ水泳連盟	日本パラ水泳地域等記録会連携型通信総合記録会
17	日本車いすバスケットボール連盟	JWBF 中長期計画推進プロジェクト～未来プロジェクト～
18	日本パラフェンシング協会	地域におけるパラフェンシング振興事業

No.	団体名	事業名称
19	日本車いすカーリング協会	車いすカーリング体験会
20	日本障害者スキー連盟	地域におけるパラスキー・スノーボード振興事業
21	日本パラアイスホッケー協会	パラアイスホッケー活動拠点の拡大・支援事業
22	全日本視覚障害者ボウリング協会	視覚障害者ボウリング地域指導者・支援者養成講習会 事業
23	日本パラダンススポーツ協会	パラダンススポーツ体験会
24	日本ソーシャルバスケットボール協会	精神障がい者バスケットボール推進事業 ソーシャルバスケットボールキャラバン 2024-2025
25	日本アンプティサッカー協会	ウインクス・オブ・アンプティサッカー 女子アンプティサッカー普及推進プロジェクト
26	日本セーリング連盟	インクルーシブセーリング推進事業
27	日本車椅子ソフトボール協会	地域における車椅子ソフトボール振興事業
28	日本卓球バレー連盟	卓球バレー競技を通じた地域におけるパラスポーツ活動の定着推進事業
29	日本デフ陸上競技協会	スタートランブ運用とデフアスリート理解・配慮事項の研修会開催事業 障がい者向けのデフ陸上教室とデフリンピック普及のための体験会
30	日本聴覚障がい者ラグビーフットボール連盟	聴覚に障がいをもつ子供や大人を対象とした、タグラグビー・ラグビーの普及事業
31	日本知的障がい者サッカー連盟	JFFID 地域活性化プロジェクト～だれもがいつでもどこでもサッカーができる環境整備～
32	全日本柔道連盟	知的障がい者柔道 紹介事業

(2) 県市等のパラスポーツ協会の組織運営の支援

1) 県市等パラスポーツ協会実態調査

5年に一度の調査のため、本年度は実施しなかった。

2) パラスポーツコーディネーター配置事業（モデル事業）

県市等のパラスポーツ協会(2協会)に、専任の「パラスポーツコーディネーター」を配置し、既存事業を遂行するだけでなく、協会およびコーディネーターが主体的に企画・運営し、行政機関をはじめとする関係団体等と協力・連携しながら、障がい者が気軽に運動・スポーツに取り組むための環境を整備することを支援した。

No.	受託団体名	事業名
1	宮城県障害者スポーツ協会	パラスポーツコーディネーター配置事業
2	広島県パラスポーツ協会	パラスポーツコーディネーター配置事業

(3) 県市等におけるパラスポーツ施策一元的推進体制への支援

ミッション2「2-2」(1) 参照

「2-2」県市等におけるスポーツ関係団体間の連携の支援

(1) 県市等におけるスポーツ関係団体間の連携の支援

都道府県・指定都市行政、県市等パラスポーツ協会、パラスポーツ指導者協議会、パラスポーツセンターの4者によるパラスポーツブロック連絡協議会を8ブロックで実施し、各都道府

県・指定都市におけるスポーツの施策一元化とその動向、パラスポーツの地域振興体制の構築を進めるための情報交換や意見交換を行った。

No.	ブロック	日程	開催地	会 場
1	近 畿	令和6年7月10日(水)	大阪府	大阪府立障がい者交流促進センター ファインプラザ大阪
2	九 州	令和6年7月17日(水)	福岡県	クローバープラザ(福岡県)
3	中部東海	令和6年8月26日(月)	名古屋市	愛知県産業労働センターウインクあいち
4	中四国	令和6年9月 9日(月)	岡山県	岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館
5	北海道	令和6年9月14日(土)	北海道	北海道立道民活動振興センター かでる2.7
6	東 北	令和6年9月26日(木)	福島県	コラッセふくしま(福島県)
7	北信越	令和6年11月5日(火)	新潟県	高田ターミナルホテル(新潟県)
8	関 東	令和6年11月14日(木)	群馬県	群馬県庁

ミッション3【競技力向上とパラアスリートの価値・魅力の向上】

世界で活躍できるパラアスリートの発掘・育成・強化、全国的・国際的な各種パラスポーツ競技大会の定期的開催などにより、競技力の向上とパラスポーツの価値・魅力の向上の実現に向けて事業を行った。

「3-1」競技力の向上

(1) 世界を目指すパラアスリートの活躍支援

JPC 加盟競技団体が行う基盤的強化活動を支援するため、医・科学・情報支援、タレント発掘支援、アスリート育成パスウェイの構築支援等を行った。また、各種国際総合競技大会に日本代表選手団を派遣するとともに、日本代表選手が最高のパフォーマンスを発揮できるようにするための支援を行った。

1) 基盤的強化活動

① 競技団体が行う強化活動に対する助成

JPC 加盟競技団体が実施する選手強化活動事業に対して、各競技のパラリンピック等の国際経大会への競技実績等(基礎配分)と重点強化指定競技団体(重点配分)を勘案し、加盟競技団体への助成を行った。

ア. 選手強化活動事業

競技団体の強化指定選手を対象とした国内外で実施する強化合宿及び海外へのチーム派遣、海外チームの招聘等に加え、計画的かつ継続的な選手強化等の事業に際して、AR や VR 等のデジタル技術を用いた選手強化活動やアスリートが現在実施している競技以外のスポーツ・トレーニングを実施する「クロストレーニング」を積極活用するパラリンピック競技団体を支援するなどの選手強化活動を行った。

イ. コーチ力強化事業

海外の優秀なコーチの招聘または海外へのコーチ派遣を行った。

ウ. 競技団体選手強化体制整備事業

競技団体における国際競技力向上のための強化活動に係る強化委員会等の会議の開催や競技大会の視察及びその他強化体制の整備を図るための事業

a) アスリート委員会

JPC 戦略計画に基づき、JPC 及び JPC 加盟団体会議等スポーツ関連団体の組織運営にアスリートの声を反映するとともに、主体的にパラリンピックムーブメントを推進すべく、各種研修会等を実施した。

第1回 令和6年5月28日(火) 対面/オンライン

第2回 令和6年10月1日(火) オンライン

第3回 令和7年3月5日(水) オンライン

○パリ2024パラリンピック競技大会視察

視察者：三阪委員長

b) JPC 女性スポーツ委員会

女性アスリートの活躍を支援するために JPC 女性スポーツ委員会にて、相談窓口の設置及び研修会等を開催した。

第1回 令和6年6月24日(月) オンライン

第2回 令和7年3月10日(月) オンライン

○ジャパンパラ競技大会における相談窓口設置

《水泳競技》

日 時：令和6年5月5日（日） 10時～15時

参加者：桜間副委員長、鈴木委員、上出委員

相談人数：延べ6名（選手3名、コーチ1名、保護者2名）

《陸上競技》

日 時：令和6年9月28日（土） 10時～16時

9月29日（日） 10時～13時

参加者：桜間副委員長、上出委員

（日本パラ陸上競技連盟(JPA)医事委員会と連携して設置）

相談人数：延べ9名（選手6名、コーチ1名、保護者1名、大会役員1名）

○キッズルームの設置

大会等に参加する選手・スタッフを対象に託児業務（事前申込制）

《ジャパンパラ水泳競技大会》

日 時：令和6年5月1日（水） 13時～18時、2日（木） 10時～18時

3日（金）～5日（日） 8時～18時

利用者：5日間で延べ2名

《ジャパンパラ陸上競技大会》

日 時：令和6年9月27日（金）～29日（日） 8時～18時

利用者：3日間で延べ2名

《パリ 2024 パラリンピック競技大会日本選手団結団式》

日 時：令和6年7月16日（火） 12時～17時

利用者：1名

《JPC 女性スポーツ委員会主催セミナー》

日 時：令和7年1月16日（木） 9時半～13時

利用者：1名

○JPC 女性スポーツ委員会主催セミナーの開催

日 時：令和7年1月16日（木） 10時～12時30分

場 所：日本パラスポーツ協会(JPSA)3F 会議室

○女性アスリートへの身体的課題解決のためのオンライン個別相談

日 時：令和6年6月20日（木）～令和7年2月28日（金）までの間の希望日

対 象：令和6年度夏季・冬季パラリンピック実施競技団体、デフリンピック実施
競技団体に所属する女性強化指定選手

○公認パラスポーツトレーナーに向けたアンケート調査報告書冊子作製

昨年度実施の公認パラスポーツトレーナーに向けたアンケート調査報告書をまとめ、
各競技団体へ配布

○パリ 2024 パラリンピック競技大会視察

日 時：2024年8月27日（火）～9月8日（日）

目 的：国際競技力の動向と選手レベルおよびハイパフォーマンスサポートの状況確認、
大会組織運営の視察や関係組織と関係構築

視察者：鈴木委員、花岡委員

○臨床スポーツ医学会での活動報告

日 時：令和6年11月16日(土)、17日(日)

場 所：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

内 容：【能瀬委員長】

東京およびパリパラリンピック候補選手における婦人科受診率の比較
～JPC 女性スポーツ委員会の取り組みより～

【上出委員】

女性パラアスリートの妊娠・出産・子育て支援の取り組みと課題

c)クラス分け委員会

クラス分けに関する啓発・教育を推進し、競技団体が行うクラス分けの活動に対する助言・協力、IPC クラス分け規程並びに国際基準の啓発・教育の推進を行った。

第1回 令和6年5月28日(火) 対面/オンライン

第2回 令和6年10月1日(火) 対面/オンライン

第3回 令和7年1月30日(木) 対面/オンライン

d)選手強化対策委員会の開催

○JPC 運営委員会

第1回：令和6年7月4日(木)

パリ 2024 パラリンピック 日本代表選手団第一次決定および結団式について

第2回：令和6年9月25日(水)

JPC 加盟希望競技団体の承認可否について/ミラノ・コルティナ 2026 パラリンピック冬季競技大会 日本代表選手団派遣方針及び選考基準について/タシュケント 2025 アジアユースパラ競技大会 日本代表選手団派遣方針及び選考基準について/その他報告

第3回：令和6年12月5日(木)

JPC 国際総合競技大会派遣規程の改訂について/日本パラリンピック委員会運営規程の改訂について/その他報告

臨時運営委員会：令和7年2月17日(月)

競技団体の処分について

第4回：令和7年3月21日(金) 開催

○JPC パリ 2024 特別強化委員会

パリ 2024 パラリンピック競技大会での金メダル獲得に向け、対象となる競技・選手に対し、必要な強化環境の整備等を行った結果を振り返り、検証を行った。

実施日 令和6年11月21日(木) 対面/オンライン

○JPC 強化本部

JPC ビジョンを基に、コーチ・情報科学・発掘育成・トレーナー・クラス分けの各専門領域の立場から各競技団体の活動を支援し、組織力の底上げを図るとともに、JPC が行う事業(会議、研修会、日本代表選手団、競技力審査、JSC 競技力向上事業の評価、メダル目標設定、特別強化委員会、J-STAR プロジェクト等)に対する助言、協力を行った。

第1回：令和6年4月2日(火)

令和5年度活動報告、令和6年度活動方針

第2回：令和6年7月26日(金)

パリ 2024 大会に向けて、NF アンケート調査について、日本代表選手団編成方針・選考基準について

第3回：令和6年10月25日(金)

NF 向け研修について、NF アンケート調査結果について、日本代表選手団編成方針・選考基準について、各視察報告

第4回：令和7年3月13日(木)

令和6年度取りまとめ

e)強化活動実施状況の視察

JPC 強化本部委員による各種大会等（ジャパンパラ競技大会、J-STAR プロジェクト）の視察を行った。

f)JPC ギャザリング2025

パラリンピックサイクルで実施してきた取組みの振り返りを JPC 関係者が一堂に会し、経験や知見を広く共有するために開催した。

開催日：令和7年2月28日(金)

場 所：NTCウエスト

対 象：JPC 加盟競技団体・パラリンピック実施競技団体(HPD、強化担当者、強化スタッフ、クラス分け担当者、アスリート連絡担当者含む NF 強化指定選手等)
スポーツ庁、JSC、JOC 等の関係団体担当者

参加者：延べ人数 144 名

■参加者属性（登録時）

属性	参加者数
NF（JPC 加盟競技団体パラリンピック実施競技団体）	77 名
アスリート（NF 強化指定選手・次世代アスリート・JPC 強化指定選手）	14 名
JPC（専門委員会/スタッフ）	18 名
スポーツ庁	6 名
日本スポーツ振興センター（JSC）	18 名
日本オリンピック委員会（JOC）	1 名
上記以外の JPC 関係団体	10 名

■NF 参加者の担当（複数選択あり）

属性	参加者数
HPD	17 名
強化事務担当者	7 名
強化スタッフ（コーチ・サポートスタッフ）	42 名
クラス分け担当者	18 名
アスリート連絡担当者	4 名
その他（役割等を記入）	7 名

内 容：パリ 2024 大会の振り返り、選手団のアンケート結果報告

基調講演：①オーストラリアの選手団づくりにおける配慮と工夫

Sally Guest(ナショナルインテグリティマネージャー・
パラリンピック・オーストラリア)

②IPC クラス分け規程の現状とこれから

Jan Burns（IPC クラス分けコンプライアンス・監視委員会 委員長）

分科会：東京パラ 2020～パリ 2024 大会まで金メダルの道のり

日本代表選手団、選手に求められるインテグリティ

データから考えるパラアスリート育成パスウェイ、クラス分け分科会

Ⅱ. ナショナルコーチ・スタッフ等設置事業

a) JPC ナショナルコーチ・スタッフ等設置事業

パラリンピック競技大会をはじめとする国際競技大会で活躍が期待できる競技者を有する JPC 加盟競技団体及び当協会に、中長期強化戦略プランの作成を担うハイパフォーマンスディレクター (HPD)、ナショナルヘッドコーチ、ナショナルチームコーチ、ナショナルスタッフを設置し、競技団体の基盤強化、選手の育成・強化を効果的に推進した。また、JPC にはハイパフォーマンスマネージャー (HPM) とサービスマネージャー (SM) を設置し、各加盟競技団体の HPD 等と情報共有・相互連携することにより強化事業の効果的推進を図った。

※令和 6 年度：183 名を委嘱

○JPC ハイパフォーマンスマネジメントチーム (HPMT) による活動

JPC に設置する HPM 及び SM を HPMT として、各競技団体に設置された HPD と年間を通じたコミュニケーションを行い、中長期的な強化戦略プランの計画・立案・策定を支援するとともに、強化戦略プランに基づく日常的な強化活動における課題解決に向けた助言、知見の提供、人材の紹介等を行った。また、HPD の育成のためのシステム構築・研修を行った。

a) 各競技団体の HPD やコーチ・スタッフを対象としたセミナー等の実施

①HPM セミナー

令和 7 年 1 月 16 日 (木) プロジェクトマネジメントについて

②ハイパフォーマンスコーチセミナー

令和 6 年 5 月 10 日 (金) 令和 5 年度の振り返り

令和 6 年 7 月 26 日 (金) 令和 6 年上半期振り返り

令和 6 年 10 月 25 日 (金) パリパラリンピック振り返り

③情報・科学スタッフ連絡会議

令和 6 年 12 月 16 日 (月)

④HPM チーム主催のコミュニケーション勉強会

令和 6 年 6 月 11 日 (火) 国際交渉について

令和 6 年 7 月 30 日 (火) クラス分けについて

令和 6 年 11 月 18 日 (月) パリパラリンピック振り返り

②JPC クラス分け情報・研究拠点 (Classification Hub: CH) の設置

クラス分けに係る「教育・研修」「国際情報の収集・共有」「調査・研究」「アスリート情報の管理」「ネットワーク構築」などの業務を一元的に担うことで、クラス分けの機能充実に向けた取り組みを進める目的で設置。専門人材として JPC クラス分けマネージャー、コーディネーター(視覚障がい担当・身体障がい担当)を置き、以下の活動を行った。

a) メールマガジンの配信開始 (毎月配信)

b) CH 研修会の実施

IPC クラス分け規程 2025 の改訂について

令和 6 年 10 月 11 日 (木)・11 月 6 日 (水)

c) 国内・国際クラス分け実施に向けての協力・支援

d) 国内競技団体におけるクラス分け体制等のヒアリング実施

③タレント発掘事業「ジャパン・ライジング・スタープロジェクト（J-STAR プロジェクト）」

将来のパラリンピック競技大会等で活躍する有望なアスリートを発掘し、競技団体の育成・強化コースへ導くことを目的として、全国各地でタレント発掘プログラム（測定会による参加者の選考）と発掘された参加者を対象とした検証プログラム（トレーニング合宿での検証）を実施した。JSC、JOC、JSP0 やパラリンピック競技団体、地域の関係団体等と連携し、各種プログラムを展開した。

ア. 発掘プログラムの実施

	開催地	日程	会場	申込	参加者数
1	広島県	6/29(土)	広島県立障害者リハビリテーションセンター・スポーツ交流センターおりづる	23 名	16 名
2	大阪市	7/13(土)	大阪市舞洲障がい者スポーツセンター（アミティ舞洲）	39 名	37 名
3	札幌市	7/20(土)	北ガスアリーナ札幌 46	1 名	12 名
4	佐賀県	7/27(土)	吉野ヶ里町文化体育館	33 名	29 名
5	宮城県	8/4(日)	宮城県総合運動公園グランディ・21 セキスイハイムスーパーアリーナ／サブアリーナ	15 名	13 名
6	三重県	8/10(土)	AGF 鈴鹿体育館	27 名	21 名
7	新潟県	9/23(月・祝)	新潟県障害者交流センター（新潟ふれ愛プラザ）	12 名	11 名
8	徳島県	9/28(土)	徳島県立障がい者交流プラザ	18 名	16 名
9	東京都	10/6（日）	日本大学文理キャンパス	50 名	39 名
計				231 名	194 名

【参考：令和5年度エントリー（申し込み）数241名、参加者194名】

イ. 検証プログラムの実施

検証プログラムは23競技団体（強化単位）に委託し、76名が検証のための合宿・トレーニングに参加した。

ウ. J-STAR プロジェクト修了生の活躍

パリ2024パラリンピック競技大会J-STAR修了者から5競技8名（陸上競技、ボッチャ、カヌー、ゴールボール、水泳）が出場し、金メダル1個（ゴールボール男子 鳥居陽生）、銅メダル1個（知的水泳 木下あいら）を獲得した。

2)国際総合競技大会への日本代表選手団の派遣、その他、アスリート等のための研修会の開催

①国際総合競技大会への日本代表選手団の派遣

a)パリ2024パラリンピック競技大会

大会期間 令和6年8月28日(水)～9月8日(日)（12日間）

開催地 フランス パリ

主催 国際パラリンピック委員会(IPC)

パリ2024オリンピック・パラリンピック組織委員会

参加国 167か国・地域、及び難民選手団

実施競技 公式競技 22競技・549種目（男子271種目 女子235種目 混合43種目）

※日本代表選手団は、21競技に参加（下線＝日本出場）

アーチェリー・陸上競技・バドミントン・ブラインドフットボール・ボッチャ・
カヌー・自転車競技・馬術・ゴールボール・柔道・パワーリフティング・ロー
イング・射撃・シッティングバレーボール・水泳・卓球・テコンドー・トライ
アスロン・車いすバスケットボール・車いすフェンシング・車いすラグビー・
車いすテニス

日本代表選手団 330 名（選手 175 名、競技パートナー 19 名、競技スタッフ 107 名、本部 29 名）
団 長：田口亜希（日本パラリンピック委員会運営委員）
副団長：井田朋宏（強化部長）・中澤吉裕（JPC 強化本部長）
旗 手：石山大輝（陸上競技）・西田杏（身体水泳）

成 績 メダル獲得数：金 14 銀 10 銅 17 計 41 個

特記事項 ① 東京大会を上回る金メダル数
② 過去最多となる 8 競技での金メダル獲得（バドミントン、自転車、ゴールボール、柔道、水泳、卓球、車いすラグビー、車いすテニス）
③ 日本史上初の団体競技男子・混合での金メダル（男子：ゴールボール、混合：車いすラグビー）
④ パラリンピック連覇 4 名（バドミントン：梶原大暉、里見紗李奈、水泳：木村敬一、自転車：杉浦佳子）
⑤ マルチメダリスト 5 競技・9 名
（金 2 個：水泳 木村、車いすテニス 上地結衣、金 1 含む計 4 個の水泳 鈴木孝幸、金 1、銀 1 計 2 個：バドミントン里見、車いすテニス小田 凱人、金 1、銅 1 の計 2 個：バドミントン梶原、銀 1、銅 1 の計 2 個：陸上競技 佐藤 友希、銅 2 個：水泳 富田 宇宙、ボッチャ遠藤 裕美）
⑥ 競技団体史上初の金メダル獲得 知的卓球（和田なつき）、車いすラグビー
⑦ 競技初の女子種目の金メダル獲得競技柔道女子（廣瀬順子）、知的卓球（和田）、車いすテニス女子（上地、田中愛美）
⑧ 競技史上初のメダル獲得 射撃（水田光夏）、
⑨ 女子初のメダル獲得競技
ボッチャ BC1（遠藤）、射撃（水田）、知的水泳女子（木下あいら）
⑩ 個人競技 初出場でのメダル獲得 5 競技 7 名（うち金メダリスト 2 競技 2 名）
⑪ J スタープロジェクト出身 メダリスト第一号（銅）（木下）、金メダリスト第一号（ゴールボール男子鳥居陽生）

b) 2025 年スペシャルオリンピックス冬季世界大会・トリノ

大会期間 令和 7 年 3 月 8 日（土）～15 日（土）（8 日間）

開催地 イタリア トリノ

参加国 102 の国・地域

実施競技 26 競技 ※下線＝日本出場

アルペンスキー・クロスカントリースキー・フィギュアスケート・ショートト
ラックスピードスケート・フロアボール（ユニファイドスポーツ®）・スノーボ
ード・スノーシューイング・ダンススポーツ

日本代表選手団 選手・パートナー 32 名、コーチ・役員・選手団スタッフ 24 名

特記事項 スペシャルオリンピックス日本が国内で活動を始め 30 周年を迎え、その節目にスローガンに「Beyond～ひとりひとりの輝きを～」を掲げ選手団が参加した。

② 指導者等の人材育成研修会

ミッション3「3-1」(1) 1) オ、「3-3」(1) 1) 参照

ア. アスリート等のための研修会

JPC 研修会事業の実施

JPC ユースアスリート研修事業

パラリンピック実施競技団体（以下、パラ競技団体）で強化指定されて間もない選手を対象や競技別のユース対象大会への出場対象の選手に、研修会を通してアスリートとしての心構えや強くなるための知識等を習得し、将来国際大会で活躍するアスリートの育成を目的として実施した。今年度は集合して研修会を1度実施した。

対 象(1)アジアユースパラや競技別の年代別大会に出場できる年齢の選手

(2)その他パラ競技団体から推薦があり JPC 事務局が認めた選手

※ (1) に該当しない競技団体は12歳～24歳の強化・育成指定選手等

日 程 令和7年2月8・9日(土・日) 参加者 20名 会場 NTC-E 研修室A～C

内 容 パラリンピックを通じた人間力、クラス分け、パラスポーツを支援する企業より(株式会社味の素、アシックス株式会社)、スポーツコンプライアンス、女性アスリート支援、アスリートの講話(パラ水泳:鈴木孝幸選手、パラ陸上:福永凌太選手)

③ 競技団体の経営力を強化するための研修会

ミッション3「3-3」(1) 参照

④ インテグリティ向上研修会

ミッション3「3-3」(1) 参照

⑤ セカンドキャリアのための研修会

a) JPC アスリートキャリア研修会

「自己分析」をテーマに、パラスポーツを通して自身がこれまで得た経験や知識について振り返り、その中で今後のキャリアにおいても活かせるものを客観的に整理できるようにすることを目的とする。

対 象 : NF アスリート連絡担当者 他

日 程 : 令和6年11月21日(木)オンライン

内 容 : 講義・個人ワーク

講 師 : 山内 貴雄 氏(一般社団法人アポロプロジェクト)

(2) 強化環境の整備

ハイパフォーマンススポーツセンターの利用等に関する運営会議に参加するとともに、パラリンピック実施競技団体が計画的にナショナルトレーニングセンター(NTC)を利用できるように利用調整を行った。

(3) 日本オリンピック委員会(JOC)等との連携強化

オリンピック・パラリンピック日本代表選手団派遣及び、運営に関する情報共有及び連携を行った。

「3-2」日本での主要国際大会開催への協力

日本で開催する、愛知・名古屋2026アジアパラ競技大会(以下、愛知・名古屋アジアパラ)及び、第25回夏季デフリンピック競技大会東京2025(以下、東京デフリンピック)の開催にあたり、

各大会組織委員会が行う事業に参加・協力を行った。

愛知・名古屋アジアパラでは、昨年の令和5年10月3日に開催都市契約を締結、東京デフリンピックでは、同年11月22日に開催基本計画を発表した。

「3-3」競技団体・パラアスリートへのスポーツインテグリティの向上

(1) ガバナンス(団体統治)の強化とコンプライアンス(法律や倫理の遵守)徹底並びにインテグリティ(高潔性)の向上

スポーツ団体の適正なガバナンス(コンプライアンス及びインテグリティを含む)確保のための仕組みとして、スポーツ庁、JSC、JSPQ、JOC 及び当協会(JPSA)が緊密な連携の下で中央競技団体(NF)のガバナンス確保に取り組む体制を構築するため、各団体等の長からなる「スポーツ政策の推進に関する円卓会議」(円卓会議)を設置。JSPQ、JOC、JPSA は、各加盟のNFを対象に、スポーツ庁が令和元年6月に策定した「スポーツ団体ガバナンスコード」に則り適合性審査を毎年実施(4年で全てのNFが受審)し、その審査結果とともに不祥事案は円卓会議で報告される。

1) 令和6年度の審査の状況

①対象団体 JPC加盟11団体

②審査結果 全て適合

2) JPSA 役職員向けの研修会、競技団体の経営力を強化するための研修会、及びアスリートのインテグリティ向上等のための研修会

①JPSA 役職員向け研修会

メンタルヘルス研修「働きやすい職場作りのために」：令和6年8月8日(木)

インテグリティ研修「SNS上の誹謗中傷」：オンデマンド視聴

②JPC インテグリティ研修会

パラリンピックや世界選手権などに日本代表選手として世界を舞台に戦う強化指定選手の資質・インテグリティ(誠実さ、真摯さ、高潔さ)を高め、自らやスポーツの価値を高める知識と手段、正しい倫理観を学び、併せて報道機関やSNSを通じて自身の姿や成果を社会に対して適切に発信することを学ぶことを目的とする。

対象 ・パラ実施競技団体：強化指定選手、育成/次世代強化指定選手(必須)

・パラ実施競技団体：チームスタッフ(コーチ、事務局スタッフなど)(必須)

・デフリンピック実施競技団体が指定する選手/スタッフ(オンデマンドのみ)

○オンライン研修会日程 講師：小塩 康祐氏(JPC 法務支援担当)

『ハラスメント事例と予防について』

○令和6年度のインテグリティ研修会

『ハラスメント、大規模国際大会前に向けて』

(1) 選手対象

第1回 4月26日(金) 327名参加

第2回 5月25日(土) 211名参加

第3回 6月28日(金) 234名参加

(2) 強化スタッフ対象

第1回 4月27日(土) 253名参加

第2回 5月31日(金) 322名参加

第3回 6月29日(土) 128名参加

3)その他

各競技団体のガバナンスの適正化を図るため、ガバナンスコード適合性審査、JPC 法務支援窓口を活用しながら運営面の支援やアスリート等からの相談窓口による支援のほか、コンプライアンス委員会などによる競技団体のガバナンスの改善に向けた協議、指導・助言などを行った。

(2)アンチ・ドーピング活動の徹底

クリーンで公正なスポーツを守るため、日本アンチ・ドーピング機構や日本スポーツフェアネス推進機構との連携を図り、競技団体やアスリート及び関係者に対するアンチ・ドーピング活動に関する教育や研修を行うとともに、ドーピング検査活動に関する協力を行った。

アンチ・ドーピング体制の整備のため、これまで JPSA/JPC が JPC 加盟競技団体の代表として JADA^{*1}へ加盟していたが、各 JPC 加盟競技団体の JADA への個別加盟を進めている。

また、2021Code 及び教育に関する国際基準等に則した国内の教育を実施するため、JADA 承認エデュケーターを配置し、パリ 2024 パラリンピック競技大会の派遣前教育や、佐賀県で開催された全国障害者スポーツ大会でのアウトリーチなどを行った。

^{*1}JADA・・・日本アンチ・ドーピング機構

- ・全スポ佐賀大会でアウトリーチブース出展（10月26日）
- ・JADA 教育者向け連絡会議（11月6日）
- ・JPSA アンチ・ドーピング部会（12月6日）
- ・2024年度 アンチ・ドーピングカンファレンス（於オリンピックスクエア）12月18日
- ・アンチ・ドーピング NF 連絡会議（2月1日）
- ・JADA 主催オープンセミナー:2月1日(JPC 加団体対象)、2月15日(デフ団体対象)

ミッション4【パラスポーツを通じた国際協力の推進】

パラスポーツに関わる国際的情報を収集するとともに、我が国の取り組みについて情報発信するため、国際機関との連携・交流を図った。また、国際スポーツ界の意思決定に積極的に参画するため、国際機関への日本人役員のポストを維持・拡大を目指すとともに、NFと連携し、国際競技団体（IF）で活躍できる人材の輩出などにより国際協力を推進した。

「4」国際協力

(1)国際役員としての活動を通じた世界のパラスポーツ発展への協力

1) 国際組織との連携

- ① 令和6年5月 IPC 臨時総会(オンライン)
内容: IPC クラス分けコードについて、IPC 理事メンバーの障がい者の割合について
- ② 令和6年5月 World Abilitysport Nations' Call(オンライン)
内容: 最新情報の共有、ガバナンスレビューアンケートについて等
- ③ 令和6年7月 APC 理事会(オンライン)
内容: 南アジア代表について、常任委員の承認 等
*戦略計画についてのワークショップも同日開催。
- ④ 令和6年8月 APC 理事会(オンライン)
- ⑤ 令和6年10月 APC 理事会(台湾 台北市)
内容: 常任委員の承認 等
- ⑥ 令和6年10月 ASEAN 支援 Sport for tomorrow(霞ヶ丘 JSC)
ポストスポーツ・フォー・トゥモロー推進事業(令和6年度)重点事業『SFT シンボルプログラム』ASEAN スポーツ指導者育成システムの発展のための政策立案・能力開発を目的としたスタディツアー。JPSA としては、公認指導員養成について説明。
- ⑦ 令和6年10月 イタリア大使館イベント
内容: イタリアスポーツの日レセプション
- ⑧ 令和6年12月 日中韓スポーツ大臣会合に伴う実務者会議
場所: Japan Sports Olympic Square
内容(実務者会議):①アジアのパラスポーツ振興に向けた相互連携、②スポーツ交流事業の更なる推進に向けて、③大規模国際大会の成功に向けた相互協力
- ⑨ 令和7年1月 JICA 支援
インド青少年スポーツ省推薦者へのインドのスポーツ普及・推進についての講義依頼
- ⑩ 令和7年1月 Sport for tomorrow Next
イエメン・レバノン関係者が沖縄と東京を訪問

2) NPC 他との連携

ポルトガルパラリンピック委員会、香港パラリンピック委員会、英国パラリンピック委員会の3NPC また World Para Athletics、Virtus 韓国、インドスポーツ青年省の来訪を受け、組織体制や選手強化に関する情報収集及び提供を行った。

また、12月13-14日に開催された日中韓スポーツ大臣会合を機会に、中華人民共和国パラリンピック委員会、韓国パラリンピック委員会との関係強化も行った。

3)国際組織への役員・委員の輩出等

現在獲得している国際組織の役員のサポートを行った。IPC アスリート委員については9月の選挙に向けて活動を行ったが、残念ながら再選とはならなかった。

*²IPC 理事 マセソン美季氏 (2021～2025)

*²IPC アスリート委員 鈴木孝幸氏 (2021～2024)

*⁴IBSA 理事 松崎英吾氏 (2023～2024)

*³AsPC 理事 安岡由恵氏 (2023～2027)

*³AsPC 理事/アスリート委員会委員長 三阪洋行氏 (2023～2027)

*²IPC・・・国際パラリンピック委員会 *³APC・・・アジアパラリンピック委員会

*⁴IBSA・・・国際視覚障がい者スポーツ連盟

4)国際資格取得・更新講習会

当協会が制定する「公認障がい者スポーツ指導者制度」に基づく講習会以外に、各競技団体における指導者の養成及び資質向上のため、競技別指導者講習会の支援を行った。また、海外で開催されるクラス分け等国際資格取得・更新講習会の助成募集も行った。

ミッション5【共生社会実現に向けた国民の意識改革の促進】

パラスポーツの理解促進を通じて共生社会実現に向けた国民の意識変革を促すよう以下の事業を行った。

「5」パラスポーツの理解促進及び広報

(1)パラスポーツ大会等の開催

①JPSA 主催ジャパンパラ競技大会

競技名	開催日	会場	来場者数
水泳	令和6年5月3日(金・祝) ～5日(日・祝)	横浜国際プール (神奈川県横浜市)	1,050 名
陸上競技	令和6年9月28日(土) ～29日(日)	屋島レクザム フィールド (香川県高松市)	2,700 名
ゴールボール	令和6年11月22日(金) ～23日(土・祝) ※参加国：日本A/B・ポーランド・ オーストラリア	所沢市民体育館 (埼玉県所沢市)	1,000 名
車いすラグビー	令和7年2月6日(木)～9日(日) ※参加国：日本・オーストラリア・ フランス・イギリス	千葉ポートアリーナ (千葉県千葉市)	2,585 名
アルペンスキー	中止	中止	—

②パラリンピック競技：JPSA/JPC 主催・共催国際大会

ア)天皇杯 第50回記念日本車いすバスケットボール選手権大会

開催日： 令和7年1月31日(金)～2月2日(日)

開催場所： 東京体育館(東京都渋谷区)

③JPSA 共催大会

ア)かすみがうらマラソン兼国際ブラインドマラソン 2024→

開催日： 令和6年4月21日(日)

開催場所： 川口運動公園J：COM フィールド土浦周辺(茨城県土浦市)

イ)第43回大分国際車いすマラソン

開催日： 令和6年11月16日(土)～17日(日)

開催場所： 大分県大分市内

ウ)皇后杯第33回日本女子車いすバスケットボール選手権大会

開催日： 令和6年12月7日(土)～8日(日)

開催場所： グリーンアリーナ神戸(兵庫県神戸市)

エ)天皇盃 第36回全国車いす駅伝競走大会

開催日： 令和7年3月8日(土)～9日(日)

開催場所： 京都市内(京都府)

オ)文部科学大臣杯争奪第33回日本車いすツインバスケットボール選手権大会

開催日： 令和6年6月22日(土)～23日(日)

開催場所： バルドラール浦安アリーナ【浦安市総合体育館】(千葉県浦安市)

(2) 『I'mPOSSIBLE (アイムポッシブル)』日本版の活用

昨年度に続き、今年度も既存教材をもとに、ICT化した授業で活用しやすい教材として第二弾を制作し、活用のための促進を行った。また、昨年度に新ドメインで立ち上げた『I'mPOSSIBLE』日本版公式サイト、同じく任命した『I'mPOSSIBLE』日本版アスリートアンバサダーの香西宏昭選手（車いすバスケットボール）による広報・普及活動を行った。

さらに、『I'mPOSSIBLE』日本版を使用することが共生社会理解につながっているかどうかを検証するための調査実施に向けて、調査を実施した。

1)教材改定

小学生版および中学生・高校生版「公平について考えてみよう」について、既存教材をもとに、ICT化した授業で活用しやすい、アニメーション映像等を中心とした教材を制作した。また、内容を補足するための「+アルファ映像」をパラリンピアンの子倉橋香衣選手、パラ水泳木村敬一選手に出演いただき、制作した。いずれも『I'mPOSSIBLE』日本版公式サイトより無償でダウンロード、または接続して使用できるようにした。

2)広報・普及活動

① 教員研修

対面7件、オンライン6件合計13件の教員研修会を実施し、286名の教師が参加した。また、これまで学校、または教育委員会単位で実施していたが、希望する教員が個人単位で参加できる研修も企画し、8月7日(水)、8日(木)に実施し、合計60名が参加した。

② 授業事例共有等

新しく制作した教材を使用した授業実施の様子を、映像で紹介するための動画を制作し、公式サイト上で公開した。

3)企業・外部組織との連携

公益財団法人ゴールドウイン西田東作スポーツ振興記念財団の主催する「富山県共生スポーツ協議会」に参加し、『I'mPOSSIBLE』日本版の考え方を該当地域に伝えるための活動を開始した。

日本車いすバスケットボール連盟との協働により、①『I'mPOSSIBLE』日本版授業×②車いすバスケット体験会×③車いすバスケット天皇杯(1/31～2/2)学校観戦を組み合わせたプログラムを実施した。

(3) 広報活動の充実

パラスポーツや共生社会に関する国民の理解促進を図るため、広報活動の充実を図った。具体的には①競技や協会事業等のパンフレット作成のほか、協会唯一の会報「NO Limit」内で身近な地域でのパラスポーツ情報を充実させること ②関係者だけでなく、誰でもパラスポーツに関連した情報を得やすい、わかりやすいウェブサイトの運営継続 ③パリ2024パラリンピック競技大会の特別サイト運営及び前後でのSNS発信などタイムリーな広報展開などを意識し、競技団体との密な連携を行った。

(4) マスメディアとの連携

パリ2024パラリンピック競技大会前後で国内マスメディアと一層の連携をし、開閉会式・競技の配信やニュース・新聞での多くの露出に繋がった。東京2020パラリンピック競技大会を契機に高まった世論の関心を維持・向上させるべく、JPSA・JPCのニュースリリース及び取材対応を丁寧に行い発信の充実を行った。

JPSA 理事会・評議員会及び JPC 運営委員会後のメディアブリーフィングを定例で開催した。
また昨年に引き続き記者懇談会を開催し、会長をはじめとする幹部との交流する場を設け、各社へ JPSA 及び JPC の近況報告などを行った。

○JPSA/JPC 記者懇談会 令和7年1月28日(火) 17社29名参加

①トークセッション「パラスポーツと DEI の視点でパリを振り返る」

登壇者 マセソン 美季 様

(国際パラリンピック委員会 理事／ 日本パラリンピック委員会 運営委員)

田中 晃 様

(一般社団法人日本車いすバスケットボール連盟会長/

株式会社 WOWOW 代表取締役会長執行役員)

②ミラノ・コルティナ 2026 パラリンピック冬季競技大会 大会情報

ミッション6【JPSAの万全な基盤づくりの実現】

JPSAの組織体制の強化や、財政基盤の充実・安定化により、パラスポーツの発展に向けた万全な基盤づくりを図った。

「6-1」財政基盤の充実・安定化

(1)活動資金の安定確保

パラスポーツの普及拡大や競技力の向上などに係る事業を継続的、かつ、安定的に実施するためには、財政基盤の充実・安定化が必要であり、国等との緊密な連携のもとに国庫補助金や民間助成金の充実・確保及び公的資金や民間資金を活用した活動資金の安定的な確保に努めた。

(2)企業のスポンサー制度の充実

パラスポーツの価値・魅力の向上とパラスポーツファンの拡大等の活動を通じて、JPSAビジョンの「活力ある共生社会の実現」をともに目指すパートナーとして「JPSA オフィシャルパートナー」の企業数の拡大に努めている（令和7年2月1日現在31社、サポーター8社）。

またJPC オフィシャルパートナーについては、令和7年1月1日～4年間を期間とし、名称をスポンサープログラムからパートナーシッププログラムに変更、「パラリンピック日本代表選手団」の支援と「パラリンピックムーブメント推進」を目的として開始した。一部、日本オリンピック委員会（JOC）と連携し、オリ・パラ連携プログラムも実施した。（令和7年2月1日現在5社）。

○2024年度 JPSA パートナースミューティング

【ディレクター向け】

第1回令和6年6月12日（水）実務者クラス対象 30社54名参加

・講演：パラスポーツ情報提供

① 共生社会とパラスポーツ振興 JPSA スポーツ推進部長 滝澤幸孝

② パラスポーツとメディア（仮題）NHK 解説委員 竹内哲哉 氏

・取り組み紹介：東京ガス株式会社

第2回令和6年12月9日（月）実務者クラス 29社49名参加

・講演：鈴木徹さん（パラ陸上） 選手のキャリア（選手と仕事）について

・取り組み紹介：三菱ケミカル株式会社活動事例紹介

【エグゼクティブ向け】

令和7年2月19日（水）役員クラス対象 26社55名参加

講演1

【パラスポーツに触れる魅力とパラスポーツで変わる社会の可能性】

講演者：延與 桂氏（東京都障害者スポーツ協会会長／元東京都オリパラ準備局長）

講演2

【聴覚障がいの理解とデフスポーツ理解～迫る！デフリンピック開催～】

講演者：竹見 昌久氏（ろう学校教諭/デフ陸上指導者 日本デフ陸上競技協会事務局次長）

○JPSA パートナー対象のパラスポーツ観戦プログラム

目 的 スポーツに親しむ全国の障がいのある方にとって、目標とする最も身近な全国大会である「全国障害者スポーツ大会」を企業の皆様に観戦いただき、参加する選手のプレーや、大会運営やそれに至るハード・ソフト面の計画・整備等を肌で感じることを通して、パラスポーツの地域振興における大会の意義を感じていただく機会とする。

日 程 令和6年10月25日（金）～10月26日（土）※大会会期26日（土）～28日（月）

場 所 佐賀県

内 容 パートナー企業2社が参加し、社会福祉法人太陽の家の見学の他開会式観覧、グランドボール、ボウリング、聴覚バレー、水泳、陸上の5競技を観戦。

(3)寄付金募集の拡充

パラスポーツの普及・振興のための寄付を実施するほか、パラリンピックメダリストへの報奨金をはじめ選手の育成・強化、パラリンピックムーブメントの促進等を目的とした事業への募金活動を行った。従来の銀行振り込みによる寄附手続きに加え、新たにクレジット決済システムを導入し、手続きの簡素化を図った。

「その他」JPSA の組織体制の強化

(1)JPSA の業務遂行体制の見直し・強化

組織体制・諸規程等の見直しやデジタル化の推進など業務遂行ルールを改善することにより、協会を取り巻くステークホルダーからの信頼を高めるとともに、必要最小の人数で最大の効果を上げるべく業務の最適化を図る。

(2)各専門委員会の効率的・効果的運営

各専門委員会（医学、技術）や専門部会の下に設置している各部会の役割を必要に応じて適宜見直し、機能強化と効率的・効果的な運営を図る。

(3)職員研修等の充実

職員の資質向上を図るため、ハラスメント防止等についての研修を行った。

→ミッション3

「3-3」競技団体・パラアスリートへのスポーツインテグリティの向上参照

その他

1. 会議開催等

(1) 評議員会・理事会等の開催

1) 評議員会

○定時評議員会

日時 令和6年6月27日(木) 13:30～15:30

議案 令和5年度決算報告書(案)について
理事候補者(案)について

○臨時評議員会

日時 令和6年12月24日(火) 13:30～15:30

議案 パラスポーツの普及拡大に関する事業について
競技力の向上に関する事業について
活力ある共生社会の実現に関する事業について

2) 理事会

○第1回定例理事会

日時 令和6年6月11日(火) 13:30～15:00

議案 令和5年度事業報告(案)について
令和5年度決算報告書(案)について
理事候補者(案)について
役員候補者選定委員会細則及び評議員選定委員会運営細則の一部改正(案)
について
令和6年度定時評議員会の開催(案)について

○第2回定例理事会

日時 令和6年10月3日(木) 13:30～15:00

議案 臨時評議員会の招集について

○第3回定例理事会

日時 令和6年12月10日(火) 13:30～15:30

議案 臨時評議員会の招集について

○臨時理事会(書面決議)

日時 令和7年1月17日(金)

議案 スポーツ団体ガバナンスコード適合性審査結果について

○臨時理事会

日時 令和7年2月17日(月) 13:00～14:00

議案 競技団体の処分(案)について

○第4回定例理事会

日時 令和7年3月25日(火) 13:30～15:30

議案 令和7年度事業計画(案)について

3) 役員候補者等選定委員会

日時 令和6年5月23日(木) 15:00～16:00

議案 理事候補者の選定について

(2)専門委員会（技術委員会・医学委員会）の開催

1) 技術委員会

①代表者技術委員会（委員長と3事業部会長による会議）

日時 令和6年5月10日（金）15:30～17:30

内容 各部会の令和6年度の取り組みについて

②育成部会

第1回 日時 令和6年9月20日（金）13:30～15:30

内容 パラスポーツ指導員研修会の改革について
e ラーニングについて

第2回 日時 令和7年2月19日（水）13:30～15:30

内容 パラスポーツ指導員研修会の改革について
e ラーニングについて

③競技部会

第1回 日時 令和6年8月8日（木）15:00～18:30

内容 第23回全国障害者スポーツ大会「SAGA2024」について
（資格審査、リハーサル大会の報告、本大会視察のポイント等）
新障害区分・年齢区分について（障害区分WGからの報告・検討）
調査研究事業「陸上競技におけるスラロームの実態調査」について

第2回 日時 令和6年11月22日（金）13:00～17:00

内容 第23回全国障害者スポーツ大会「SAGA2024」の視察報告
（大会視察の報告、介助申請の状況 等）
新障害区分・年齢区分について（障害区分WGからの報告・検討）
調査研究事業「陸上競技におけるスラロームの実態調査」について
競技別技術指導員連絡会について

第3回 日時 令和7年1月21日（火）11:00～16:30

内容 競技別技術指導員連絡会の報告
令和6年度 全国障害者スポーツ大会 大会委員会について
第24回全スポ滋賀大会 資格審査に係る研修会について（報告）
令和7年度 競技規則改正および障害区分、年齢区分の見直しについて

④推進部会

第1回 日時 令和6年8月7日（水）15:00～18:00

内容 令和6年度地域におけるパラスポーツの振興事業について
（委託費、団体ヒアリング、自己評価シート、受託条件等の検討）
令和6年度パラスポーツ実施環境の構築支援・拠点整備事業について
令和6年度 パラスポーツセンター機能強化・人材育成等事業について

第2回 日時 令和6年11月12日（火）15:00～18:00

内容 令和6年度地域におけるパラスポーツの振興事業について
（自己評価シート、事業報告会等の検討および今後の現地視察の確認等）
令和7年度地域におけるパラスポーツ振興事業について
（事業相談会など今後の取り組み内容の整理）

第3回 日時 令和7年2月25日（火）15:00～18:00

内容 令和6年度「地域におけるパラスポーツの振興事業」報告会について

事業報告書について

令和7年度「地域におけるパラスポーツの振興事業」について

団体ヒアリング、事業相談会、受託団体決算の進捗状況等の報告

⑤全体技術委員会（委員長、3事業部会の全ての委員による会議）

日時 令和7年3月17日（月）10:30～11:30

内容 令和5～6年度 技術委員会 取り組み報告について

JPSAの取り組みについて（事業報告）

令和7年度 技術委員会の活動計画について

2) 医学委員会

第1回 日時 令和6年7月31日（水）18:30～20:30

内容 令和6年度に向けた体制について

第2回 日時 令和6年12月20日（金）19:00～21:00

内容 NF チームドクターに向けた情報提供

第3回 日時 令和7年3月7日（金）19:00～21:00

内容 各部会及び委員より令和6年度の活動報告

令和7年度に向けた体制について

(3) コンプライアンス委員会の開催

第1回 日時 令和6年10月17日（木）10:00～12:00

議題 パリ2024 パラリンピック競技大会の選手辞退について

JPC 加盟団体（1 団体）の処分について

第2回 日時 令和6年11月15日（金）10:00～12:00

議題 JPC 加盟団体（1 団体）の処分について

第3回 日時 令和6年11月29日（金）14:00～16:00

議題 JPC 加盟団体（1 団体）の処分について

今後の対応について

第4回 日時 令和7年2月13日（木）10:00～12:00

議題 JPC 加盟団体（1 団体）の処分について

(4) パラスポーツ指導者協議会運営委員会の開催

第1回 日時 令和6年5月17日（金） 13:40～16:00

内容 令和6年度 指導者協議会助成金交付について

公認パラスポーツ指導者全国研修会について

第2回 日時 令和6年12月23日（月） 13:00～16:00

内容 パラスポーツ指導者の育成と研修についての検討

各ブロック研修、地域特別研修 実施（案）内容について

第19回 公認パラスポーツ指導者全国研修会 進捗報告（第20回も含む）

令和6年度公認中級・上級パラスポーツ指導員育成研修会 進捗報告

各ブロックの研修会等実施についての近況報告

第3回 日時 令和7年3月6日(木) 16:00～19:00

内容 各ブロック活動報告およびブロック研修費等の精算状況
各事業部会(研修、情報、指導、トレーナー)活動報告
今後のブロック内の運営体制および研修の実施について
令和7年度講習会・研修会の委託事業について

(5)JPC 運営委員会の開催

※アクションプラン3-1 参照

(6)令和6年度 JPSA 合同会議の開催

対象 パラスポーツ協会協議会、パラスポーツ指導者協議会、
パラスポーツ競技団体協議会、パラスポーツセンター

日時 令和7年3月7日(金) 11:00～15:30

(7)表彰等

会長表彰等(特別功労章、功労章、特別賞、感謝状)、パラリンピック特別賞

日時 令和7年3月7日(金) 16:00～17:00